

市立函館南茅部病院移転新築基本構想【概要版】

1 基本構想の策定

(1) 策定の背景および必要性

- 昭和50(1975)年に南茅部病院が竣工して以来、幾度か増築を重ねてきたが、建物本体は築48年を経過し、施設・設備面で老朽化が進んでいるほか、現在の立地場所は、津波災害警戒区域に位置している。
- 南茅部地域の人口減少の影響から、患者数が減少し、毎年度、多額の資金不足が生じている。
- 新たな施設の整備には、令和5年度中に策定する「公立病院経営強化プラン」に今後の医療提供のあり方の方向性を示し、総務省と協議する必要がある。

(2) 基本構想の内容

地域医療の動向や、南茅部病院を取り巻く環境から、現在の課題を把握した上で、それらの課題解決に向けた取組みを整理し、新たな施設に必要な機能や規模、建設場所の考え方等についての方向性を示す。

2 南茅部病院の現況

(1) 概要

- 診療科目：内科，小児科，外科，整形外科
- 病床数：一般病床37床，療養病床22床，計59床
- 職員数：医師3人，看護師・准看護師26人，医療技術員6人，看護補助7人，事務員6人，管理栄養士・調理師6人，計54人
(R5.3月時点，正職員+会計年度)

(2) 南茅部病院の経営状況（資金ベース）

（単位：百万円）

区分	H28	H29	H30	R1	R2	R3
収入※	514	505	514	502	464	509
支出	571	596	601	616	565	602
単年度実質収支	▲57	▲91	▲87	▲114	▲101	▲93

※ 赤字補てんのための繰入金を除く

3 課題解決に向けた今後の方向性

(1) 施設・設備面の課題

- 建物の耐震性・老朽化
 - 医療機器の経年劣化
 - 立地条件
- ⇒ **快適な医療施設・設備**
津波災害警戒区域を外れた場所，交通の便が良い立地への移転

(2) 運営・経営面の課題

- 経営は悪化傾向
 - 人口減少により患者数が減少
 - 医師等の確保
- ⇒ **持続可能な医療の提供**
病院（医療法上20床以上）として運営を継続することは極めて困難であり，診療所（19床以下）化を進める

(3) 地域における課題

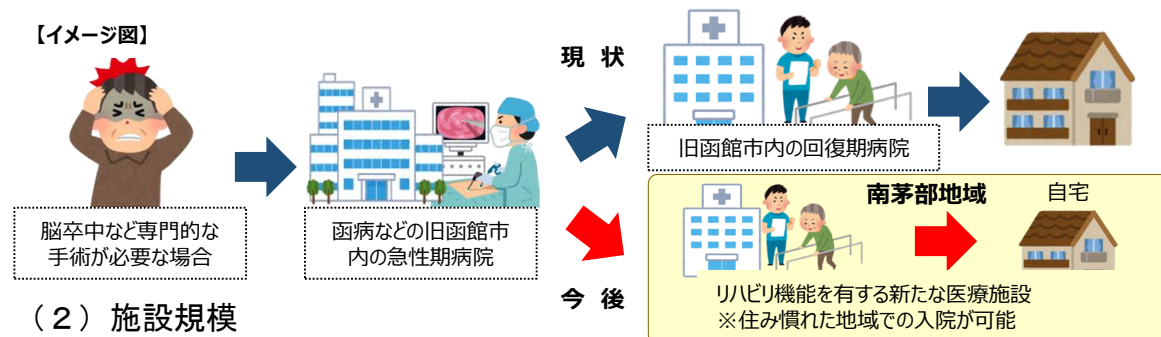
- 二次救急医療機関までの距離
 - 地域住民の高齢化
- ⇒ **地域の実情に即した機能**
救急告示医療機関としての機能を維持するとともに，地域医療構想の実現に向けて，市立函館病院など，基幹となる病院との連携を図り，回復期のリハビリ機能を有する病床の整備が必要

4 診療所の整備基本方針

(1) 新施設の診療体制

- 回復期のリハビリ機能を有する病床の整備
- 内科，外科を基本 ※ 他科については，診療応援による開設を検討

【イメージ図】



(2) 施設規模

延べ床面積は1,500㎡～2,000㎡程度 ※ 他都市を参考とした場合

(3) 建設地

南茅部支所敷地内 ※ 津波災害警戒区域外，利便性を考慮

(4) 事業費および財源

今後，基本計画や基本設計・実施設計における検討段階で，病院事業会計および市の財政に与える影響を十分に考慮のうえ積算

5 今後のスケジュール（予定）

- 令和5年(2023年) 6月 基本構想公表
- 令和5年(2023年) 7月～ 基本計画
- 令和6年(2024年) 7月～ 基本設計・実施設計
- 令和8年(2026年) 3月～ 整備工事
- 令和9年(2027年) 4月 開院